

## 自分の生活をプロデュースする機会に

新型コロナウイルス感染症対策のため、臨時休校が5月31日まで延長されました。子どもたちと会えるのを楽しみにしていただけに残念でしたが、命を守るためですのもうしばらく辛抱したいと思います。

先生方が家庭訪問をする中で、うれしい報告をたくさん聞きました。あるお家では、お父さんが子どものために時間割表を作ってくださいました。また、午後からは、おばあちゃんの手伝いで、畑仕事をがんばっているという子もいました。田植えの手伝いをしたという子もいました。散歩もかねて親子で図書室の本を借りに来てくれるお家もあります。いろいろと制約のある中で、充実した生活を送れるよう各家庭で工夫していただいていることがよく分かります。

ずっと家にいることはしんどいことですが、自分の生活を自分でデザインできるいい機会ととらえてはいかがでしょうか。課題等のしなければならないこと、時間がある今だからこそでできること・

やりたいこと、家族のためにできること、そのようなことを書き出して、バランスよく時間割を組んでみてはどうでしょう。きっと、自分だけの素敵な時間割が出来上がると思います。計画的に自分の生活をプロデュースして、充実した毎日を過ごしましょう。

自分の生活をプロデュースすることは、本年度の学校経営の基本方針とも関連しています(裏面参照)「**〇主体的に学習・生活の課題を解決しようとする子どもを育てる**(「どうすればいいか」を子どもに問い続ける)。」という方針です。先生方には、何か課題があったとき「どうしたらいい?」と子どもに問いかけ、自分で考えさせ、自力で解決できるよう導いてほしいとお願いしています。また、「生活カード」「『やり抜く力』評価カード」を活用して、自分を客観的に振り返り、よりよい自分へと伸びていけるよう毎月取り組んでいきます。

昨年実施したメディアアンケートの結果から、「時間が長い」「夜遅くまでやっている」「知らない人とつながっている」「多額の課金をしている」等の課題が浮かび上がりました。その課題解消のために、保護者・子ども・教師向けにそれぞれ外部講師による学習会を計画しています。子どもたちがメディアと上手に付き合っていけるよう、学校・家庭が連携して取り組んでいきましょう。

昨年の保護者アンケートには「登校時の挨拶がもう少し大きい声でできたら…」という意見が複数ありました。私もその通りだと思います。少しでも子どもたちの元気が出るように、声掛けを続けていきます。ただ、昨年1日だけとてもさわやかないい声であいさつできた日がありました。暴風警報で登校を1時間ほど遅くした日です。きっとすっかり目が覚めて、いいあいさつができたのだと思います。あいさつの大切さについては学校でも繰り返して伝えていきます。「朝から元気なあいさつができる生活習慣づくり」について、ご家庭でもご協力をいただきますようよろしくお願いします。

今日は、久しぶりに子どもたちの元気な姿を見ることができて、とてもうれしく思いました。今までと同じ日常に戻ることは難しいと思いますが、ウイルスと上手に付き合っ、新たな生活を確立していけたらいいなと思います。